

アドベントも第二週を迎えました。寒さも一段と強くなり、いよいよ冬の到来です。先週は、一足早く、保護者会のクリスマスがありました。困難の中であって生まれたイエス様、夜に輝く星のようにクリスマスは、闇の中の光を覚えるお祝いであることをお伝えしました。すべての人に神の愛と平和をと、祈っています。

真っ暗な世界に

人生には3つの「坂」がある、という話があります。登り坂、下り坂、最後のひとつは「まさかの坂」です。自分のせいでもないのに、事故や災害、思いがけない災難に見舞われることがあります。病気になったり、人間関係の問題を抱えたりします。なぜ、と答えのない出来事に出会う時、人は悩み苦しみます。現実は明るくても、自分だけは真っ暗な世界に閉じ込められたような気持ちになるかもしれません。

今朝の聖書の箇所は、イエス・キリストの誕生を語る、新約聖書の一番初めの部分ですが、救い主の先祖の系図に、私たちと同じ3つの坂があると伝えようとしています。それは、父祖アブラハムに始まり、ダビデ王家の血筋を引くという登り坂、王国の衰退と滅亡をたどる預言者イザヤの時代の下り坂。そして、不倫関係、遊女、カナン人やモアブ人といった忌み嫌われた血筋といった、まさかと思われるようなDNAも受け継がれていることの告白を見出すからです。

福音書は、私たちにイエス・キリストが救い主であることを証しするために記されました。しかしそれは、正しい行いや、完璧な人間が救われるというメッセージではありません。むしろ、どうしようもない人間が、十字架の死と復活によって贖われて救われるという慰めと希望のメッセージです。この系図は、イエス様が真っ暗な世界に飛び込んできてくださったことを証ししています。

常識への新たな挑戦

この系図の最大の「まさか」はマリアの紹介に他なりません。初代教会の誕生の時代から、世間のマリアへの批判と無理解が強かったことは想像に難くありません。

「初女が身籠って男の子を産む」という、この奇跡の一文をすんなりと信じることのできる大人は誰もいないからです。聖書が届けるメッセージは慰めと希望ですが、それは同時に、常識を打ち破り、新しい次元に私たちを引き上げようとする、挑戦を告げる力強さをも併せ持っています。

「神にできないことは何もありません」この天使の言葉は私たちに、「まさか」を祝福に変える神の奇跡を信じなさいと告げています。この信仰に生きる人が、人生の疑問に神の平安と恵みを見出す祝福を味わうことができるのです。

人生はなぜの連続です。しかしそれは神の奇跡の連続でもあるのです。ハレルヤ！